

ミラーン訓練所の現在。取水口に面していて、遠くから目立つ。2017年7月4日



ミラーン取水口

あとは内装の問題になっている。しかし、機能し始めるには時間が必要なので、性急な進行は禁物。周囲の治安は極度に悪化していて、ジャララバードの役人さえ滅多に来ない状況だ。PMS としては職員の安全を考慮して、シェイワやガンベリの宿泊地を引き払い、ここを仮宿泊所と資機材置き場に利用している。職員は遠隔地を除き、現在ほとんどが自宅から作業場に赴いている。この地域は PMS 以外に野外で働く団体はない。現在、地域自治会と合同して、強力な防御態勢をとっている。とはいっても、紙上のプログラムは容赦なく動くので、この点を伝えるのに苦労している。2017年7月4日



下流側から見る訓練所。遠くから見ると船のようだとは、一致した印象。ミラーン堰の洪水は、昨年報告したように、河道の分割で高い水位が押し寄せないように工夫されている。2017年7月4日



ミラーン堰、第一河道の現在。河川水量の約 15%以下が到着する仕組みになっている。PMS の堰の中では、最も安定した水位を誇る。2017 年 7 月 4 日



ミラーン用水路の現在。柳は挿し木後2年前後で樹高3m以上。ふとん籠を背後から守る。2017年7月4日



こちらは開通後 8 年を経過したガンベリ沙漠横断路。古色蒼然、昔からあったような風格。水量は豊富で、シギ下流域まで潤す。2017 年 7 月 4 日



ナツメヤシ園。4月に移植したばかり。州農業省のものは結果まで時間がかかる（約10年以上）ので、早生種（約5年）をパキスタンから移植。定期的に専門家が訪れてアジュマル君らを指導している。2017年7月4日



農園の最多数派は柑橘類だ。オレンジ 6000 本は移植後 3 年目を迎え、枯死したものは殆どなかった。樹高約 2.5m。オレンジ歌会の開催をめざして、農業部が闘志を燃やす。2017 年 7 月 4 日



移植後3年目で結果し始めた「マールタ」園。マールタは柑橘類の一種で、ネーブルを小ぶりにしたような種類。酸い味が少なく糖度が高い。2017年7月4日



アルファルファ。現在、ガンベリに野草種のように定着してしまった。四季咲きで旺盛な繁殖力。冬の家畜の飼料はもちろん、樹間に植えれば、窒素肥料を大幅に減らす。また、カルシウムを盛んに吸収するらしく、土壌改良に一役買っている。日本では熊本で健康食品のジュースで売り出されたことがあり、「カルシウム含有濃度が高く、骨を守る」という触れ込みだった。目立たないが陰の立役者。2017年7月4日



水稻。田植え時期は九州地方とほとんど同じ。今年は5ヘクタール（約50反）で栽培。稲は連作が効き、人口密度が高くなったアフガン農村では最も適した作物だ。ヘクタール当たり小麦が平均3トンであるのに対して、やせ地のガンベリでも4トンを超える生産（PMS農場）が可能。湿地処理が完成した現在、今後最も期待されるものの一つ。2017年7月4日



稲作の絶対条件が水田で、水田の絶対条件が豊富な水供給と十分な排水力だ。この一年、最大の物量を投じた主幹排水路の完成は、大きな希望を地域にもたらした。水田は急速に増やせるだろう。7月4日までに物量を要した練石積みとU字溝設置が全区間で完了。700m区間の籠積みだけとなった。2017年7月3日



水位低下は約 2.5m 以上、場所によっては 4m 以上、湿地は乾燥し、安心して作付けできるようになっている。灌水すれば蓄積した塩類も流れて消えていくから、一種の土壤改良でもある。2017 年 7 月 3 日



皆さん、お疲れさまです。雑務を離れて、おかげで洪水対策に集中することができるようになりました。「敵を知り、己を知らば・・・」の通り、実地測量と観察がないと確信を以て方針が立ちません。しばらく他の仕事を全て放棄して、動きます。川の仕事は真剣勝負の待ったなしですが、打つ手はあります。現場は一斉に、機敏に動き始めました。しばらくご迷惑をおかけしますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

